

【別紙様式2】

千葉県県土整備公共事業事前評価自己評価調書

事業名	一般国道126号山武東総道路三期
担当課名	道路計画課

1. 事業の概要

(1) 事業の目的		一般国道126号山武東総道路※1三期は、銚子連絡道路の匝瑳市から旭市までの13kmを構成する道路である。 山武東総道路と一般国道126号飯岡バイパス、事業中の八木拡幅が一体となり、高規格道路※2である銚子連絡道路の山武市から銚子市間が概成する。 銚子連絡道路の概成により、圏央道の整備効果を山武東総地域へ広く波及させ、県内外との交流・連携を強化し、地域経済の活性化や防災力の向上を図る。 ※1 山武東総道路について 一期：圏央道松尾横芝IC～銚子連絡道路道路横芝光IC 約6km（平成18年3月開通） 二期：銚子連絡道路横芝光IC～匝瑳市 約5km 事業中（令和5年度開通予定） ※2 高規格道路：主要な都市や重要な空港・港湾を連絡するなど、高速自動車国道を含め、これと一体となって機能する、もしくはこれらを補完して機能する広域的な道路ネットワークを構成する道路であり、求められるサービス速度が概ね60km/h以上の道路。	
(2) 事業の内容			
① 事業期間・時期	事業期間：10年間 令和4年度～：調査・設計・用地取得 令和8年度～：工事 令和13年度末：供用開始		
② 事業規模	延長：13km 幅員：9.5m（2車線）		
③ 事業費	全体事業費：301億円		
④ 事業位置	千葉県匝瑳市横須賀～千葉県旭市イ		
(3) 指標			
①事業目的	②指標	③現状値	④ 目標値
地域間交流・連携の強化 (定時性・速達性の向上)	所要時間の短縮 ①千葉市～銚子市 ②銚子漁港～豊洲市場	①114分 ②153分	①91分 ②129分
救急医療施設へのアクセス性向上	第3次救急医療施設(旭中央病院)までの30分圏域の面積拡大	347km2	428km2
防災機能の向上	新たな避難・輸送ルートの確保	国道126号のみ	銚子連絡道路を経由した代替ルートの確保
交通の円滑化	混雑度の緩和	国道296号入口交差点付近 1.58	国道296号入口交差点付近 0.98

2. 必要性

(1) 現状及び課題	【現状】 山武・東総地域は、水揚げ量日本一の銚子漁港や農業出荷額県内1位である旭市をはじめ、多くの農水産物に恵まれており、高いポテンシャルを有しているが、現道の一般国道126号の匝瑳市から旭市区間では、交通混雑が慢性化しており、混雑度が1.0を超過する区間も存在するなど、新鮮な農水産物の安定供給にも支障が生じており、広域的な幹線道路ネットワークの整備が必要である。 一般国道126号の死傷事故率については、袋東交差点付近では、114件/億台キロと千葉県平均の(38.7件/億台キロ)を上回る区間が存在する。 また、規格の高い道路が無く、匝瑳市及び横芝光町では救急搬送に30分以上要するケースの割合が大きい。 銚子連絡道路の供用区間(松尾横芝IC～横芝光IC)、一般国道126号は、千葉県緊急輸送道路1次路線に指定されている。 【課題】 ・広域的な幹線道路ネットワークが未整備 ・現道の一般国道126号の交通混雑への対策 ・救急医療施設へのアクセス性の向上 ・災害発生時のリダンダンシー向上
(2) 上位政策及び 全体計画との関連	銚子連絡道路は、千葉県広域道路交通ビジョン・計画(令和3年6月策定)において、全国や県内各地との交流や連携の強化、平常時・災害時を問わない安定的な人・モノの流れを確保するため、高規格道路に位置付けている。 旭市都市計画マスタープラン(平成22年3月策定)及び匝瑳市都市計画マスタープラン(平成23年5月策定)において、首都圏とのアクセス向上、国道126号の渋滞緩和のため銚子連絡道路の整備促進が位置付けられており、旭都市計画道路及び八日市場都市計画道路として都市計画決定されている。
(3) 優先度及び適時性	【優先度】 銚子連絡道路は、圏央道の整備効果を山武東総地域へ広く波及させ、県内外との交流・連携を強化し、地域経済の活性化や防災力の向上等を図る道路であり、広域的な幹線道路ネットワークを形成していく上で整備を行う優先度は高い。 【適時性】 銚子連絡道路は、これまでに山武市から横芝光町までの約6km区間を供用しており、現在、整備を進めている横芝光町から匝瑳市までの5km区間は、令和5年度に供用予定である。また、令和6年度には圏央道の大栄・横芝間の供用が予定されている。 圏央道の整備効果を山武・東総地域へ波及させるため、早期に整備を進める必要がある。
(4) 代替案との比較	一般国道126号山武東総道路三期の現計画は都市計画決定しており、別ルートは、周辺のまちづくりや都市計画との整合が図られないことから、現計画が最も優位である。

3. 経済的・社会的効果

- 国土交通省のマニュアルに基づく費用便益分析の結果、3便益の現在価値化後（基準年令和3年度）の金額は、走行時間短縮便益で194億円、走行経費減少便益は59億円、交通事故減少便益は22億円であり、費用便益比(B/C)は1.3と便益が費用を上まわっている。
- 銚子連絡道路全線の概成により、以下の効果が見込まれる。
 - ・広域的な幹線道路ネットワークの形成。
 - ・速達性の向上による物流の効率化。
 - ・交差点の立体化や沿道アクセスコントロールにより、発進・停止回数が減少し、農水産物の輸送時の荷痛み回避。
 - ・救急医療施設へのアクセス性が向上。
 - ・災害発生時の救助活動や救援物資の安定的な輸送の確保による防災力の向上。
 - ・現道の国道126号等から銚子連絡道路に交通が転換され、現道の交通混雑が緩和。

4. 財政的負担等の見通し

当該事業は、国庫補助事業を活用して事業を進める予定である。

なお、事業着手後は、設計において最新技術の活用等を検討しコスト縮減に取り組む。

5. 環境に与える影響

本事業の実施にあたり環境影響予測を実施した結果、供用時にはいずれも基準値内の予測値であったが、事業の実施にあたっては、低騒音及び低振動の工法、建設機械の採用などを行っていく。

項目	予測結果	基準
二酸化窒素	基準の範囲内	1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下
浮遊粒子状物質	基準の範囲内	1時間値の1日平均値が0.1mg/m ³ 以下であり、かつ1時間値が0.2mg/m ³ 以下
騒音	基準の範囲内	幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準（昼間70dB、夜間65dB）以下
振動	基準の範囲内	第1種区域の要請限度（昼間65dB、夜間60dB）以下
低周波音	基準の範囲内	一般環境中に存在する低周波音圧レベル（90dB）、ISO7196に規定されたG特性音圧レベル（100dB）以下
日照	基準の範囲内	建物2階高さで日影時間4時間以内（第1種中高層住居専用地域）又は、5時間以内（用途地域の指定のない地域）
動植物	影響なし	工事の実施及び道路の存在による影響が発生するおそれのある種が存在しない

6. 総合的な評価

本事業は、費用便益分析の結果B/Cが1.3であり投資効果が見込めるとともに、県内外との交流連携の強化、交通混雑の緩和、救急医療活動の支援、防災等の効果が見込まれるため、令和4年度から事業に着手し早期整備を図る。

【別紙様式 3】

事業概要図

事業名	一般国道126号 山武東総道路三期	路線又は箇所名等	一般国道126号
-----	----------------------	----------	----------



【位置図】



【計画横断図】

